

山採りみらいグループ

山田善一（兵庫県立大学環境人間学部）

キーワード：里山活用, 山採り, コミュニティビジネス

1. プロジェクトの概要

1.1 背景

かつて里山は、農村でのライフスタイルに欠かせないものであったが、今日の暮らしにおいては、次第に利用されなくなり、多くの里山では荒廃が進んでいる。このことにより、倒木の危険のある樹木の増加や、本来里山が持つ貯水機能や土砂流出抑止機能の低下など、さまざまな問題が生じているが、管理活用まで手が行き届かない状況にある。

私たちが活動する広尾東でも同じ状況にある。広尾東は、加古川市北部に位置する総戸数 82 戸の農業集落である。広尾東にも里山が存在するが、管理が放棄されており、地域住民だけでなく、里山の所有者も里山に対する関心が薄い状況にある。

1.2 目的

里山管理は全国的な課題であり、各地でさまざまな取り組みが進められているものの、播磨の里山に適した管理・活用方法は十分に定着していない。その背景には、里山資源の活用には手間がかかり、管理によって利益を得にくいという構造的な問題がある。

そのため、里山資源に価値を付けるという経済的な視点から、現代にあった里山資源の管理・活用の形を見出し、里山の持続的な管理に繋げることを目的としている。また、私たちの活動を通じて、里山の持続的な管理に寄与するとともに、地域全体における里山管理のロールモデルとなることを目指す。

2. 活動内容

2.1 山採り活動について

「山採り」とは、里山に自生している樹木や幼木、下草を掘り取り、別の場所に活着させることを意味する。月に 1 度程度の頻度で、広尾東の里山で山採り活動をしている（写真 1）。山採りした木々は、根の部分に麻布や麻紐にて包み、ストックヤードに



写真 1 山採りした木々



写真 2 スtockヤードへの植え替え作業

保管する（写真 2）。保管した木は樹種や採取日、サイズと合わせてデータベースに保管し、そのデータを庭師の方と共有して、提携している庭師の方が、このデータの中から必要な木を購入するというシステムになっている。

この山採り活動を継続していくことで、活動資金の確保に繋げていけたらと考えている。

2.2 大木の伐採について

山採りみらいプロジェクトでは通常の活動に加え、様々な計画を同時進行している。その中で、今年度行った活動のひとつが倒木の危険性がある木の伐採である。

大木伐採後の土地では、子どもの遊び場や憩いの

場を作り,人と里山との関わりを創出していくことを計画している。具体的には,場づくりのなかで,伐採した木材を里山整備の一環に活用する他,ブランコやベンチ等も作成し,里山に設置する。

また,伐採によって得られた木材を利用し,手道具で小物や家具を作る体験イベントを開催する。柔軟に加工しやすい生木を使うこと,手軽に木工を楽しむことに加えて,自然とのつながりを深く感じられる。

そして,志方東の地元住民への薪やその他の木材の需要調査を行い,整備の中で出た木材を活用してもらう場を設ける。他にも地域外の家具職人の方に木材を提供する等,伐採するだけでなく,実際に活用まで行うことで,本来あった里山の活用に近い形での,里山資源の地域内循環を促進する。

2.3 外部資金の確保

地域住民の倒木を危険視する声や,さらなる里山資源の可能性を探るべく,大木の伐採に着手するため,外部資金の確保に挑戦した。具体的には「加古川市協働のまちづくり推進事業」に申請を行った。

申請にあたっては,数カ月をわたって加古川市の市民活動推進課の方と連絡をとり,最終的にはプレゼンテーションを行った(写真3)。無事に採択されたことは,山採りの活動の意義を再認識する機会となった。

2.4 広報活動について

より多くの人に里山に関わってもらいたいと考えているため,様々な方法で広報活動を行っている。今年度はSNSを活用したインターネット上での広報や,「環境人間学フォーラム」(2025年12月4日)での発表を通し,学内に向けてPRした(写真4)。



写真3 「加古川市協働のまちづくり推進事業」プレゼンテーションの様子

3. これからの活動について

これからの活動では,山採りの活動を広めるための広報活動に力を入れていく。

広報活動の一環として,広尾東にあるカシオふれあい館にて,山採りで得た木を植樹し,毎年行われる広尾東コスモス祭りで地域内外の人に見てもらおう試みを行っている。こちらは身近に里山がある人達に向けてより里山の価値を知ってもらうことが目的である。

今年度案が出た新たな広報活動として,山採り活動で得た植物やグリーンウッドワークで得た飾りなどを環境人間学キャンパス内で販売することを計画している。同時にパンフレットなどを配布し,さらに多くの学生に山採りの活動を学生に知ってもらうことで,里山の現状を知ってもらうほか,山採りみらいプロジェクトのメンバーを増やすことを目的としている。

山採りみらいプロジェクトでは地域の里山を活用するこれらの活動を持続的に進めていくことを目的としているため,この活動の有用性を知ってもらい,さらにたくさんの人と地域の里山活動を行いたいと考えている。



写真4 環境人間学フォーラムで掲載したポスター